

第9章 目標達成のための施策

1 施策メニュー

沖縄市総合交通戦略などの上位関連計画に示された施策を踏まえ、目標達成に向けた施策の考え方と施策メニューを検討しました。

方針	施策の考え方	施策
方針 1：市内外の移動を支える公共交通環境の整備に取り組みます。		
	交通結節点の整備	①-1.交通結節点の整備 ①-2.サブ交通結節点の整備
	定時性・速達性が高い路線整備	①-3.高速バスの増便・経路の見直し・新設 ①-4.基幹バスシステムの導入
方針 2：路線バスの再編による公共交通空白地域の縮小を基本とし、その他の地域に関してはコミュニティバス等の導入を検討します。		
	既存公共交通の改善	②-1.北部地区、東部地区等の公共交通空白地域における路線バスの運行経路の見直し ②-2.フィーダーバスの導入
	コミュニティバス等の導入	②-3.コミュニティバス等の導入検討
方針 3：公共交通の利用促進や、コミュニティバス等の運行・収支状況等の改善に取り組みます。		
	公共交通の利用促進	③-1.モビリティ・マネジメントの実施 ③-2.割引制度の導入検討
	公共交通の運行環境の整備	③-3.バスレーンの延伸 ③-4.PTPS [◆] （公共車両優先システム）の導入 ③-5.自動運転技術等の活用（ART [◆] 等の導入検討）
	公共交通の利用環境の整備	③-6.情報発信・提供情報の充実
		③-7.車両や交通施設のバリアフリー化
		③-8.快適なバス待ち環境の整備 ③-9.ICカードの導入検討
	既存の公共交通の運行改善	中心市街地循環バスの運行改善 (④-2 で対応)
方針 4：市民等が利用したい施設等へのアクセス性を高めます。		
	ダイヤ・運行ルートの見直し	④-1.通学や買い物等に適した既存路線のダイヤ見直し
		④-2.中心市街地循環バスの運行改善
		④-3.新たな開発地区における路線バスの運行経路の見直し
	観光向け交通手段の導入	④-4.西海岸のリゾート地やうるま市などの観光地と結ぶバスの導入検討

2 各施策の概要

2-1 方針1「市内外の移動を支える公共交通環境の整備に取り組みます。」に関する施策

①-1.交通結節点の整備

- 施策イメージ
- 高速バスや、周辺市町村への幹線バスと市内の支線バスが結節し、スムーズに乗り継ぎができる交通結節点を整備します。
 - 交通結節点を起終点とした路線バスの運行を行うため、バスの転回場や、駐機場、乗務員の休憩所、乗務員の駐車場等を整備します。
 - スムーズで、快適な乗り継ぎ環境を整備するため、待合室や、路線案内板、案内所等を整備します。
 - 交通結節点周辺地域への移動をスムーズにするため、タクシー乗り場を整備します。
 - 整備・運営にあたっては、指定管理者制度♦、PFI♦の導入など民間活力の活用も検討します。

実施主体 国、沖縄県、沖縄市、交通事業者

スケジュール 連携計画※にもとづき実施します。

※連携計画：那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市・北中城村地域公共交通総合連携計画の略

①-2.サブ交通結節点の整備

- 施策イメージ
- 主に市内での移動における乗り継ぎをスムーズにするためのサブ交通結節点を整備します。
 - サブ交通結節点では、2台以上のバスが停車できるスペースを整備します。
 - スムーズで、快適な乗り継ぎ環境を整備するため、誰もが見やすい表示やベンチ、上屋等を整備します。

実施主体 国、県、沖縄市、交通事業者

スケジュール 連携計画にもとづき実施します。

①-3.高速バスの増便・経路の見直し・新設

施策イメージ	●沖縄市と周辺市町村間の移動実態を踏まえ、既存の高速バスの増便や、経路の見直し等を検討します。
実施主体	交通事業者
スケジュール	連携計画にもとづき実施します。

①-4.基幹バスシステムの導入

- 県を中心に進めている基幹バス構想にもとづき、市内での導入を進めていきます。
- 基幹バスが発着できる拠点として、施策①-1 交通結節点を整備します。

施策イメージ

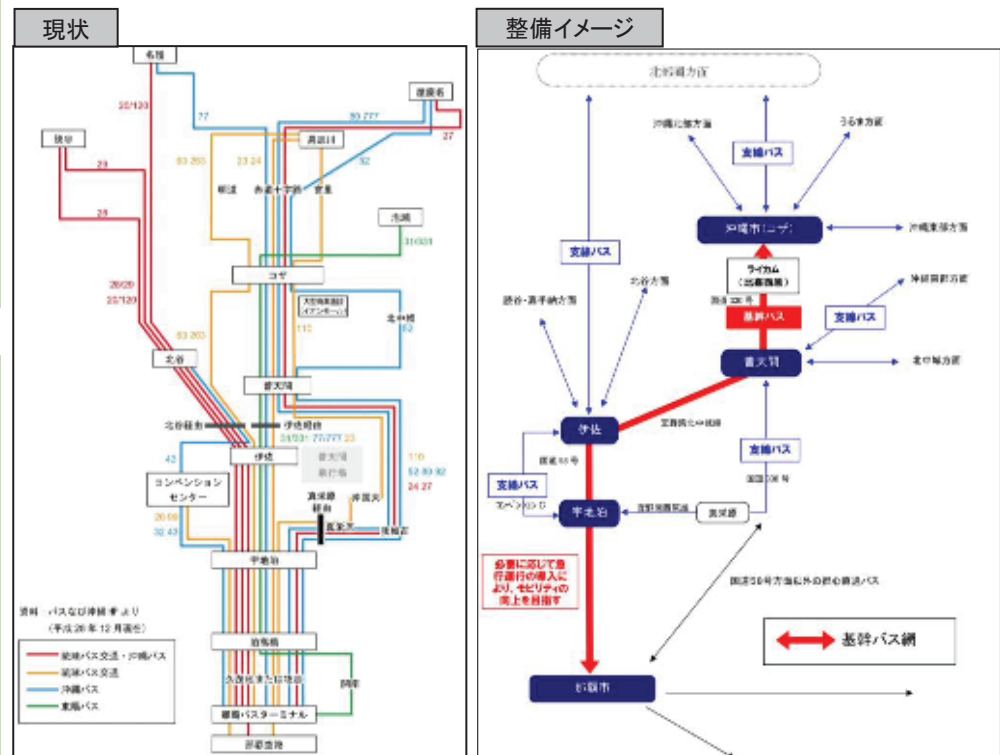


図 9-1.基幹バス構想のイメージ

実施主体	沖縄県、沖縄市、交通事業者
スケジュール	連携計画にもとづき実施します。

2-2 方針 2「路線バスの再編による公共交通空白地域の縮小を基本とし、その他の地域に関してはコミュニティバス等の導入を検討します。」に関する施策

②-1.北部地区、東部地区等の公共交通空白地域における路線バスの運行経路の見直し

施策イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ●北部地区においては、整備が進められている県道 224 号線具志川環状線に、路線バスを運行（既存系統の経路の見直しを想定）することで、公共交通空白地域の解消を図ります。 ●東部地区でも、既存系統の経路の見直しにより、泡瀬地区の県道 85 号線での路線バスの運行を検討します。 ●拡幅整備が進められている県道 20 号線（くすのき通り）を經由して、中心市街地と東部地区を連絡するバスの導入を検討します。
実施主体	沖縄市、交通事業者
スケジュール	2018 年度（H30）策定予定の再編実施計画において具体的に検討します。

②-2.フィーダーバスの導入

施策イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ●基幹バスの導入に合わせて、フィーダーバスを整備します。 ●フィーダーバスは、交通結節点またはサブ交通結節点と、市内の住宅地や、公共交通空白地域等を結びます。
実施主体	沖縄県、沖縄市、交通事業者
スケジュール	連携計画にもとづき実施します。

②-3.コミュニティバス等の導入検討

施策イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ●「施策②-1 北部地区、東部地区等の公共交通空白地域における路線バスの運行経路の見直し」での対応が困難であった場合、北部地区、東部地区の公共交通空白地域へのコミュニティバスやデマンド交通♦等の導入を検討します。
実施主体	沖縄市、交通事業者
スケジュール	2018 年度（H30）策定予定の再編実施計画において具体的に検討します。

2-3 方針 3「公共交通の利用促進や、コミュニティバス等の運行・収支状況等の改善に取り組みます。」に関する施策

③-1.モビリティ・マネジメントの実施

施策イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通の利用促進を図るため、学校や、市民等を対象にしたモビリティ・マネジメントを実施します。 ●モビリティ・マネジメントの一環として、公共交通に乗り慣れていない方への公共交通利用のきっかけづくりとして、路線バスの試乗会などのイベントを開催します。
実施主体	沖縄市、交通事業者など
スケジュール	学校関係者等と調整しながら、適宜実施します。

③-2.割引制度の導入検討

施策イメージ	●運転免許証返納者の移動支援を図るため、割引制度の導入を検討します。
実施主体	沖縄市、交通事業者
スケジュール	中心市街地循環バスについては、2019年度からの実施を目指します。

③-3 バスレーンの延伸

施策イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ●国道330号の路線バスの走行性向上を図るため、バスレーンの延伸を検討します。 ●那覇ーコザ間では、「那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市・北中城村地域公共交通総合連携計画」にもとづき、段階的なバスレーン延長をすすめていきます。
実施主体国、	国、沖縄県、沖縄市、公安委員会
スケジュール	連携計画にもとづき実施します。

③-4.PTPS（公共車両優先システム）の導入

施策イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ●国道330号の路線バスの走行性向上を図るため、路線バス運行時に青信号が優先的に与えられるPTPS（公共車両優先システム）の導入を検討します。 ●PTPSの導入は「那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市・北中城村地域公共交通総合連携計画」において位置づけられており、同計画にもとづき導入を図ります。
実施主体	沖縄県、公安委員会、交通事業者
スケジュール	連携計画にもとづき実施します。

③-5.自動運転技術等の活用（ART等の導入検討）

施策イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ●全国各地で実施される自動運転技術等の実証実験の結果を収集・整理し、沖縄市における適用可能性、導入可能性を検討します。 ●沖縄市においても、自動運転技術等の実証実験を積極的に誘致します。
実施主体	国、沖縄県、沖縄市、交通事業者
スケジュール	内閣府等の助言を得ながら、適用可能性、導入可能性を検討します。

③-6.情報発信・提供情報の充実

施策イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通の利用促進、利便性向上を図るため、交通結節点等における路線案内板の設置や、公共交通マップの作成、アプリやサイトの開設等による情報の充実・発信を図ります。
実施主体	沖縄市、交通事業者
スケジュール	2019年度から実施可能な取組を適宜すすめていきます。

③-7.車両や交通施設のバリアフリー化

施策イメージ	●高齢者や障がい者、外国の方々など誰にでも利用しやすい環境づくりに向け、車両やバス停等のバリアフリー化、ユニバーサルデザインへの対応を進めていきます。
実施主体	国、沖縄県、沖縄市、交通事業者
スケジュール	連携計画にもとづき実施します。

③-8.快適なバス待ち環境の整備

施策イメージ	●路線バスの快適な待合環境づくりを図るため、バス停での上屋やベンチの設置を行います。 ●利用者が多いバス停や、乗り継ぎ利用があるバス停から優先的に整備をすすめていきます。
実施主体	国、沖縄県、沖縄市、交通事業者
スケジュール	連携計画にもとづき実施します。

③-9.ICカードの導入検討

施策イメージ	●現在運行されている中心市街地循環バスや、新たに導入が検討されているコミュニティバス等に、ICカードの導入を検討します。
実施主体	沖縄市、交通事業者
スケジュール	再編実施計画にもとづき導入可能性や、導入時期等について継続的に検討します。

2-4 方針 4「市民等が利用したい施設等へのアクセス性を高めます。」に関する施策

④-1.通学や買い物等に適した既存路線のダイヤ見直し

施策イメージ	●高校や大規模な事業所、スーパー、病院等の始業・開業時間に合わせたダイヤ見直しなどの工夫により、市民の通学や買い物、通院など利便性の向上とともに、公共交通の利用促進を図ります。
実施主体	沖縄市、交通事業者
スケジュール	2018年度（H30）策定予定の再編実施計画において具体的に検討します。

④-2.中心市街地循環バスの運行改善

施策イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ●中心市街地周辺における移動利便性向上を図るため、中心市街地周辺で公共交通の利便性が低い地域を運行するルートに見直します。 ●現時点では、山内地区周辺の公共交通空白地域への運行区域の拡大を想定しています。 ●中心市街地循環バスの財政負担抑制を図るため、利用状況を踏まえた効率化や、運賃改定などの増収策を検討します。
実施主体	沖縄市
スケジュール	2018年度（H30）から実施します。

④-3.新たな開発地区における路線バスの運行経路の見直し

施策イメージ	●大規模な開発が進められている東部海浜開発地区や、新たに整備される多目的アリーナなどに、既存路線バスの経路見直しによる立ち寄りや、これら開発地区を起終点とする路線の見直しなどを検討します。
実施主体	沖縄市、交通事業者
スケジュール	2018年度（H30）策定予定の再編実施計画において具体的に検討します。 2020年度の多目的アリーナ、東部海浜開発地区の部分供用にあわせた実施を目指します。

④-4.西海岸のリゾート地やうるま市などの観光地と結ぶバスの導入検討

<p>施策イメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●多くの観光客が訪れる北谷町のアメリカンビレッジや、うるま市の勝連城跡、海中道路など周辺市町村の主要観光地と、市内の沖縄こどもの国、胡屋地区（中央パークアベニュー・一番街・ゲート通り等）などの観光地を結ぶバスの導入を検討します。 ●観光客向けに、定時性、速達性を高めるため、整備が進められている県道74号線や、県道24号線バイパスなどの運行を検討します。
<p>実施主体</p>	<p>沖縄市、交通事業者</p>
<p>スケジュール</p>	<p>2018年度（H30）策定予定の再編実施計画において具体的に検討します。 2020年度の多目的アリーナ、東部海浜開発地区の部分供用にあわせた実施を目指します。</p>

